

RI*WAC

Research Institute for Women and Careers

日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0031
調査タイトル	学位取得者に関する調査
論文／雑誌名	1「学位取得者に関する調査」 (IV「家政学部卒業生の社会的展開」の一部)『日本女子大 学家政学部 100 年の歩み』
著者	館岡孝
掲載ページ	pp.153-160.
発行年	2006.05
出版社	日本女子大学家政学部 100 年研究会



被服学科（被服材料学実験）1989年



家政経済学科（経済学・生活論演習）1995年

日本女子大学進学説明会同時開催
家政学部シンポジウム
「21世紀をどう家政学で」

**JULY 25
2000**

日本女子大学家政学部のめざすもの
—環境について考える—

家政学部の各学科で代表する教員5人が「環境」をテーマとして家政学の現場からの取り組みを語ります。質疑の応答もお待ちしています。

開催日時 7月25日（水）11:00～12:30
場所 日本女子大学目黒キャンパス 講義棟 401教室

シンポジスト
児童学科 榎本 田島教授
身体学科 大庭ひる恵教授
生活学科 室谷三智子助教授
被服学科 佐々井 啓教授
家政経済学科 横田敏子教授

受付 自由会場にお越しください
家政学部100周年記念品も販売いたします

主催 日本女子大学家政学部 家政学部直営
〒152-8501
文京区目黒3-2-1
電話 03-3842-3121（代表）
http://www.jfu.ac.jp



家政学部を考える会シンポジウム 2000年



家政学部共通（コンピュータ）2000年

目次

はじめに	江澤郁子…………… 3
I 創立者成瀬仁蔵の家政学部構想	一番ヶ瀬康子…………… 5
II 家政学部の教育内容およびその変遷	
1 旧制	館岡孝、赤塚朋子…………… 10
2 新制	宮崎礼子、赤塚朋子… 26
3 通信教育課程	赤塚朋子…………… 85
III 家政学部の卒業生実態調査からみる家政学部像	
1 大正期および昭和前期の本学卒業生に対する調査から	真橋美智子… 95
2 新制家政学部卒業生に対する調査から	沖田富美子、塚原典子…111
3 通信教育課程卒業生に対する調査から	真橋美智子…142
4 家政学研究科修了生に対する調査から	佐々井啓…147
IV 家政学部卒業生の社会的展開	
1 学位取得者に関する調査	館岡孝…153
2 外国人留学生について	大野静枝…161
3 旧制・新制・通信教育—卒業後の社会的活動領域	宮崎礼子…163
V 今後の家政学部に向けて	
1 学部として	大野静枝…171 江澤郁子 佐々井啓
2 各学科より	
児童学科	石井光恵…173
食物学科	丸山千寿子…174
住居学科	定行まり子…175
被服学科	大塚美智子…177
家政経済学科	堀越栄子…178
おわりに	江澤郁子…181
資料 日本女子大学家政学部 100年の年表	赤塚朋子…183

IV 家政学部卒業生の社会的展開

1. 学位取得者に関する調査

創立（1901年）以来2001年までの100年間に家政学部の教育組織は参考資料（図Ⅱ-1）にみられるように、旧制（専門学校）の時代が約50年そして新制大学は50年であり、学部を構成する学科の面でも幾多の大きな変遷をへてきた。この間の学部卒業生数は表Ⅱに示すように約3万人で通信教育課程も合わせると約3万7千人に達する。これら卒業生の多くは、その後家政学部のそれぞれ特色ある学科の専門性を生かし、卒業後も更に幅広い分野で活躍している。その状況を把握するの一つの手がかりとして100年間の学位取得者の調査をした。以下調査の概況と結果をのべる。

〔調査対象者〕・1904年（旧制1回生）より2001年（新制51回生）までの本学の家政学部卒業生で博士の学位をもつ者とした。調査対象者名簿は桜楓会員名簿、成瀬記念館出版物、学事報告と各学科の研究室から提出された資料で作成した。

〔調査方法〕・調査項目を記した調査用紙を対象者に送付し、記入後返送する方法によった。

〔調査期日〕・2000年7月に調査用紙を発送し9月末に回収した。回収率は69%である。

〔調査結果〕・調査項目にあげた学位の種類、学位取得者数の100年間の変動と学位論文のテーマを中心にまとめた。

取得した学位の種類とそれぞれの取得者数を旧制卒と新制卒に分けて表Ⅳ-1に示す。総数は延べで214名（1人で2種類の学位をもつ者3名）であった。

学位の種類については16種類と多様で広領域にわたる。分野別で見ると人文科学、社会科学での取得者数は少なく、医、農、工、理を合わせた自然科学系が全体の69%を占める。人文、社

表Ⅳ-1 学位の種類と取得者数

学位名	旧制	新制	計	%
医学	11	36	47	22
学術	0	40	40	19
工学	2	36	38	18
農学	7	26	33	15
理学	8	22	30	14
文学	0	6	6	3
薬学	2	4	6	3
Ph.D.	2	1	3	1
経済学	1	1	2	1
歯学	0	2	2	1
教育学	1	1	2	1
家政学	0	2	2	1
農業経済	0	1	1	0.5
家政栄養	0	1	1	0.5
水産学	0	1	1	0.5
保健学	0	1	1	0.5
	34	181	215	100

会科学系は少数であるが家政学に隣接する広い分野で学位を取得している。

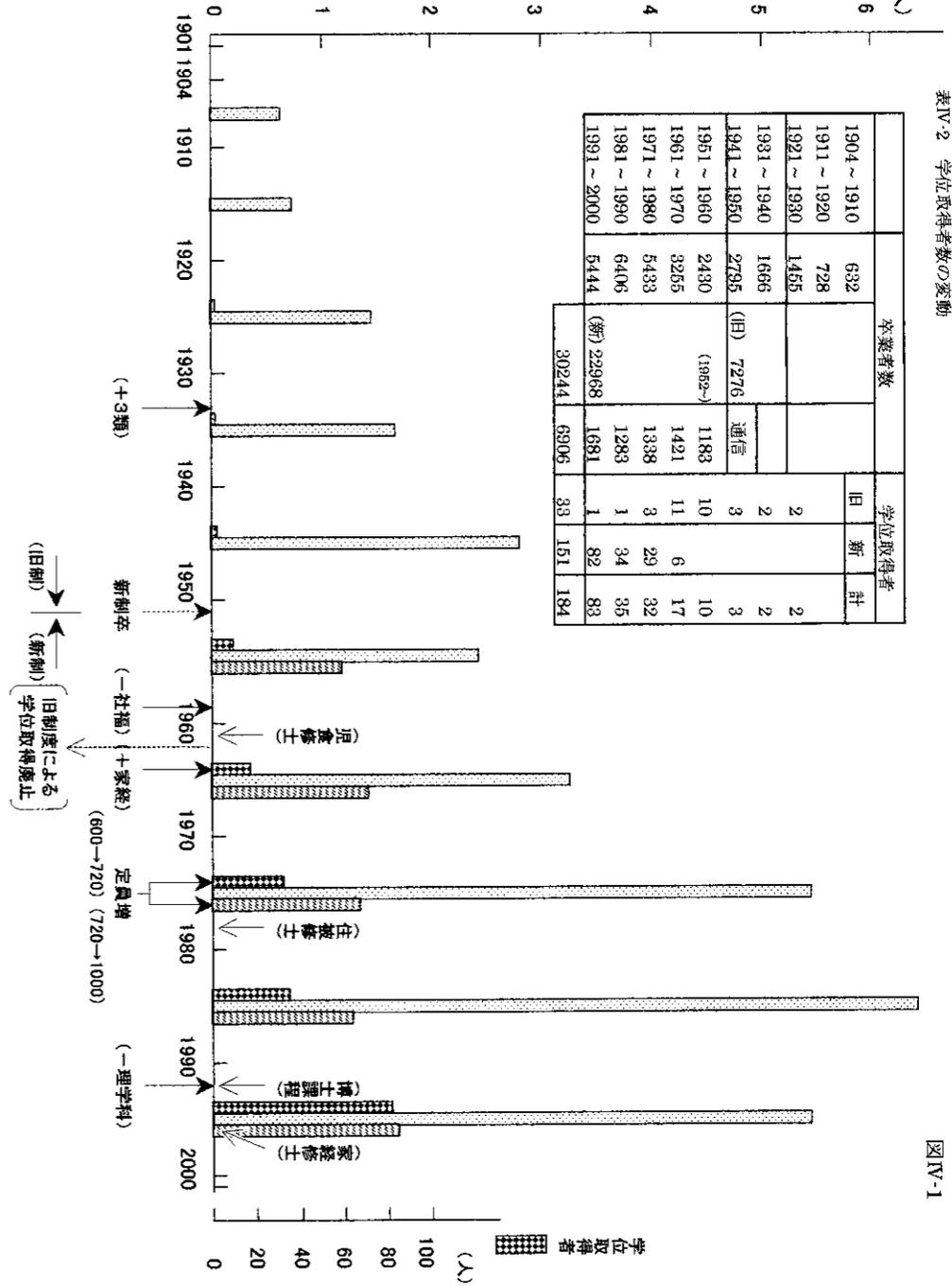
100年間で学位取得者数がどのように変動したかについて10年を一区切りにしてまとめ、その数を表IV-2と図IV-1に示す。創立後20年間は零で、1926年、1927年に米国で最初の学位取得者が誕生した。その後日本での旧学制下では大学院の数も少なく取得者は少ない。1960年代後半になって日本でも旧帝大以外の新制大学の大学院で学位がとれるようになり取得者は徐々に増加している。特に1990年から2000年にかけては学術博士の顕著な増加がみられる(表IV-3-A参照)。

表IV-3-(A)、(B)、(C)は取得者167名(調査用紙に論題が記入されている者)の論題を学位の種類別にまとめ、これを取得年の順にならべた。論題から推測するかぎり純粋科学に近いものから、人の生活に密接なかかわりをもつ応用の分野まで種々のテーマがみられる。また同じ分野でも1950年以前の初期のものと、1970年以降のものでは時代の変化や学問の進歩を反映した違いをよみとることができる。総数167人中、本学の家政学部の修士や博士課程修了者は表IIIに修士(M)と博士(D)で示してあるが、その数36名(21%)である。

以上調査結果をまとめてその概略をのべた。

表IV-2 学位取得者数の変動

卒業年数	学位取得者		
	旧	新	計
1904~1910			
1911~1920			
1921~1930			
1931~1940			
1941~1950			
1951~1960			
1961~1970			
1971~1980			
1981~1990			
1991~2000			
卒業者数	632	728	1455
	1666	2795	4461
	(旧) 7276	通信	(新) 22968
	(1862~)	1183	30244
	1421	1283	6906
	1338	1681	
	1	33	
	82	151	
			184



図IV-1

[表IV-3]-(A)-① 医学、Ph.D.、学術

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
医	1948	慶応義塾大学医学部	幼児栄養に関する研究
医	1956	京都府立医科大学	人体に於けるカロチン及びビタミンAの吸収に関する研究
医	1958	九州大学	ニオキシヒスチジンの合成と代謝
医	1959	東京医科歯科大学医学部	蛋白質の変性に関する研究
医	1959	長崎大学	蛋白質の酸分解
医	1959	九州大学	夾竹桃の強心性有効成分に就いて
医	1960	県立鹿児島医科大学(生化学)	酵母によるV.B ₁₂ 合成に関する研究
医	1960	東京医科大学	小動脈分岐部の壁細胞について
医	1961	日本大学	本邦におけるケラチン分解糸状菌の研究
医	1961	岐阜医科大学	妊産婦の栄養に関する研究
医	1965	東邦大学	ERECTRON-MICROSCOPICAL OBSERVATIONS OF(?) FORMATION OF YEAST-MITOCHONDROA
医	1970	東京医科歯科大学医学部	衣服圧が指先 Plethysmograph および拘束感覚に及ぼす影響
医	1972	東京医科歯科大学医学部	真皮膠原線維排列模様の変生にともなう変化について
医	1976	東京大学医学系研究科保健学専攻	プロビタミンD ₃ の代謝に関する研究
医	1976	東京医科大学衛生学・公衆衛生学専攻	野菜類の貯蔵および魚介類との調理過程における亜硝酸塩とニトロソアミン生成に関する研究
医	1976	東邦大学院医学研究科	連続原液継代により産生されたT抗原形成欠損SV40のウイルスDNA合成能
医	1977	東邦大学医学部	タバコ細胞壁酸性ホスファターゼに関する研究
医 M	1978	東京大学医学部	Ca ²⁺ によるコハク酸酸化の賦活とミトコンドリア酸化反応の調節
医	1979	広島大学医学部	手術着の衛生学的研究
医	1979	鹿児島大学医学部	ラット肝ミトコンドリアにおけるジオキソマール酸依存性の脂質の過酸化について
医	1980	東京大学医学部	黄色ブドウ球菌L型菌の電子顕微鏡的研究、とくに微細構造と増殖機構について
医	1981	日本医科大学医学部	化膿連鎖球菌におけるペニシリン結合蛋白質について
医 M	1982	日本大学医学部	LCT(文字完成テスト)によるかな、漢字の認知障害—日本の dyslexia の特性—
医	1983	山口大学医学部	マイクロカプセル凝集反応によるレプトスピラ症の血清学的診断法の確立
医	1984	東京医科大学	Chorda Tympani Responses to Gustatory Stimuli in Developing Rats.
医	1984	鳥取大学医学部	妊娠時に与えた食餌性コルチコステロイドの胎児および新生児の胆汁酸代謝に及ぼす影響
医 M	1986	東京大学医学研究科博士課程	「栄養条件にともなうカドミウムの腸管吸収」—cd 吸収とV.D並びに脂質との関連
医 M	1986	東邦大学医学研究科	植物油中トコフェロール同族体の高速液体クロマトグラフィによる定量とその熱処理による影響
医	1987	東京大学医学部	男性の加齢に伴う変化の意識に関する研究
医	1988	東京大学医学系研究科基礎医学専攻	Altered signal transduction in v-erbB transformed cells
医	1991	弘前大学医学部	手の母指球筋の解剖学的研究
医	1992	東京医科大学	Participation of cytoplasmic organelles in E-rosette formation.
医	1992	東京大学	プロテインキナーゼCの転写制御に関する研究
医	1993	名古屋大学医学部	Human Seminal Phosphatase Properties and Comparison with Plant Phosphatase
医	1993	帝京大学医学部	軟体動物平滑筋細胞膜成分の450kDa Ca ²⁺ 結合タンパク質(MCBP-450)の単離とその性質
医 M	1996	東京医科歯科大学医学系研究科機能系薬理学専攻	Dietary lipids and incidence of cerebral infarction in a Japanese rural community.
医	1996	東京医科歯科大学医学系研究科機能系薬理学専攻	破骨細胞形成を支持する骨髄ストローマ細胞株の樹立
医	1996	北海道大学医学部	ラットma f 関連遺伝子産物の解析、結合DNA配列およびヘテロ二量体形成
医 M	1997	東京医科歯科大学医学系研究科病理学専攻	胎仔肝細胞を用いて再構成したS C I Dマウスの免疫発達期における精巢抗原の有無による、実験的自己免疫性精巣炎の制御
医	1997	東京医科大学	急性運動負荷が血清脂質およびリン脂質中脂肪酸に及ぼす影響
医	1998	東邦大学医学部	森林香気に対する梨状皮質ニューロンの応答
医 M	2000	岐阜大学医学部	Food toughness score as a significant factor of low biting force for young Japanese females
医 M	2000	東京医科歯科大学医学部	The influence of initial exposure timing to β -lactoglobulin on oral tolerance induction

[表IV-3]-(A)-②

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
ph.D.	1926	シカゴ大学	CYTOLOGICAL STUDY OF OEDOGONIUM
ph.D.	1927	ジョンズ・ホプキンス大学	The Preparation and Properties of the Allophanates of Certain Steroids
ph.D.	1974	ボストン大学化学学部	Normal Coordinate Analysis of Azabenzene in Urey-Bradley Force Field
学	1979	大阪市立大学工学部建築学専攻	住宅における台所計画の基礎的研究
学	1991	大阪市立大学生活科学研究科保健学専攻	直射日光を含む昼光照明設計法に関する研究
学 M	1994	大阪府立大学農学部	澱粉の結晶構造と糊化・老化に関する研究
学	1995	日本女子大学人間生活学研究科保健学専攻	陰イオン界面活性剤センサーシステムの開発とその環境計測への応用
学	1995	東京医科歯科大学生体機能制御学系発生機構制御学教室	Differential expression of NCAM, vimentin and MAP1B during initial pathfinding of olfactory receptor neurons in the mouse embryo.
学 MD	1995	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	The Effect of Voluntary Exercise and Dieting on Bone Metabolism
学	1996	東京大学総合文化研究科広域科学専攻	A Basic Study on Solid-liquid Interfacial Reactions of Heavy Metal Ions in Soil Systems
学 M	1996	大阪市立大学生活科学研究科食品栄養科学専攻	Rheological and Thermal Studies on the Sol-Gel Transition of Gellan Gum and Mixed Polysaccharides
学	1996	お茶の水女子大学人間生活学研究科	周波数解析を利用した被服のサイズ適合性評価法の研究
学 MD	1996	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	児童の内発的達成動機についての心理学的考察
学	1996	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	暑熱環境適応の差異が成人女子の温熱生理・感覚反応に与える影響
学 MD	1996	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	青年期女子における摂食障害の発症機序と家族に関する研究
学	1997	千葉大学自然科学研究科	ホウレンソウプロテアソームサブユニットc DNAの単離と初期成長過程におけるこれらのmRNAおよびプロテアソーム蛋白質・活性の発現
学	1997	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	生活時間に基づく住居内の行動と空間の対応関係に関する研究
学	1998	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	抗真菌剤イトラコナゾールのマウスマクロファージに対する作用
学	1998	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	サリドマイド胎毒による先天性上肢障害者の生活行為特性に関する住環境計画の基礎的研究
学	1998	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	自閉症児におけるシンボル機能の発達と行動に関する追跡的研究
学	1998	東京大学総合文化研究科広域科学専攻	真空紫外レーザー光によるOCSの光解離ダイナミクス
学 M	1998	昭和女子大学生活科学研究科食物専攻	しば漬の色調に関する研究
学	1999	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	成長期から高齢期までの健康女性の骨密度および関連因子の検討
学 D	1999	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	女子大学生および中高年者における食行動と運動行動に関する研究
学	1999	日本女子大学人間生活学研究科生活環境学専攻	人間—環境系からみた電子情報活動の環境デザインに関する研究
学 M	1999	大阪市立大学生活科学研究科食品・栄養科学専攻	Rheological and Thermal Studies on Mixtures of Corn Starch and Food Hydrocolloids
学 MD	1999	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	The Effects of Parathyroid Hormone and VitaminD ₃ on Bone and Calcium Metabolism.
学 MD	2000	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	アミノ・カルボニル反応高分子生成物の栄養生理的側面に関する研究
学	2000	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	積載荷重の性能設計評価に関する研究
学	2000	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	難燃加工の基礎的研究—難燃化元素の繊維高分子への導入とその熱分解への影響—
学 MD	2000	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	被害地震における生活復興の分析と情報伝達システムに関する研究
学 D	2000	日本女子大学人間生活学研究科人間発達学専攻	頭圧分布・呼吸機能との関係からみた枕の快適性に関する研究

[表IV-3]-(B)-(1) 理学、農学、工学

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
理	1945	大阪大学理学部	ビタミン B ₁ のジアゾ反応について
理	1959	東北大学理学部	2-ハロトロポノル及びトロポノルシレート類のアニオノイド試薬に対する反応
理	1960	東京大学	テルルの分析化学的研究
理	1962	東京文理学部	Physiological Studies on the Enzymes Involved in the Amide Metabolism in Higher Plants.
理	1962	名古屋大学	ミヅキの越冬芽における芽の促進休眠覚醒の研究
理	1968	東京工業大学工学研究科化学専攻	火成岩中のイオウの定量
理	1969	東京都立大学理学部	ヤエナリのめばえにおけるシキミ酸の分解的代謝に関する研究
理	1970	立教大学理学部博士課程化学専攻	Optical Constants of Sodium Tungsten Bronzes in the Visible Region
理	1971	東京工業大学工学研究科化学専攻	タンパク質の立体構造におよぼすトリクロロ酢酸ナトリウムの影響
理	1971	東京工業大学工学研究科化学専攻	Vector fields in a metric manifold with torsion and boundary
理	1974	立教大学理学部化学専攻	Dihydrodipicolinate Reductase in Sporulating <i>Bacillus subtilis</i> : Purification, Properties and Metabolic Role.
理	1976	東京教育大学理学部	ヨウ素の同位体交換分析法の研究
理	1978	早稲田大学理工学研究科応用科学専攻	フェナジンおよびその置換体の電気化学的挙動
理	1979	東北大学理学部	A Comparative Study of Nodal Anatomy in the Magnosoles Based on the Vascular System in the Node-leaf Continuum
理	M 1980	東京都立大学理学部	Studies of N ¹⁵ -methylnicotinamide oxidase in normal and 2-AAF administered rat liver
理	1983	京都大学理学部大学院	イワヒメワラビの発生学的研究
理	1987	筑波大学	ミカズキモの種生物学的研究
理	1988	東京理科大学理学部	Studies on Structure and Physical Properties on Native Cellulose in Relation to Its Molecular Motion
理	1989	東北大学理学部生物化学専攻	ニチニチソウ培養細胞の細胞周期におけるポリアミンの研究
理	1993	東京大学理学系研究科	Studies on identification of X and Y-chromosome bearing sperm.
理	1993	東北大学理学部	ホウレンソウ培養細胞の硝酸還元に関する変異株の単離とその解析
理	1995	東京大学理学部	セキセイインコの音声コミュニケーションに関する神経行動学的研究
農	1940	東京大学	ビタミン B ₂ 複合体の研究
農	1949	東京大学	シノメニンに関する研究
農	1962	東京農業大学	衣服繊維に対する糸状菌の影響と防菌についての研究
農	1962	東京大学	本邦産主要キノコ類の成分に関する研究
農	1968	東北大学農学部	大豆加工品のアミノ酸に関する研究
農	1969	東京大学農学部	食品ゲルの性状についての研究
農	1970	東京大学農学系研究科	味覚の数量化に関する研究
農	1974	名古屋大学農学研究科生化学専攻	ビタミン D の活性化代謝機構
農	1977	東京農業大学農学部	果実ペクチンの化学的性状ならびに物性に関する研究
農	1977	北海道大学農学部	木材ヘミセルロースの抗腫瘍活性に関する研究
農	M 1978	九州大学	凍結乾燥魚粉の製造と貯蔵に関する研究
農	1978	東京大学農学部	大豆蛋白質に関する研究
農	1979	東京大学水産学研究科	Enzymatic decomposition of monophosphate ester compounds in the sea, with special reference to alkaline phosphatase from marine bacteria
農	1982	九州大学農学部	乳汁タンパク質のカードテンションとペプシンの消化性に関する基礎的研究
農	1983	東京農業大学農学部	ヨウ素摂取量の判定法に関する研究
農	1984	東京大学農学系研究科	チオバチルス属細菌に関する研究
農	1984	九州大学農学部	家蚕におけるセリシンの遺伝・生化学的研究
農	1986	東京大学農学系研究科林産学専攻	木材の染色に関する研究
農	M 1988	大阪府立大学農学部	食品のレオロジー的性質の測定
農	1991	九州大学農学部	官能検査のシステム化に関する研究
農	1993	愛媛大学連合農学研究科	バタースポンジケーキのテクスチャーに関する研究
農	1994	東京大学農学部	米核活性細菌を利用した凍結乾燥技術の開発—基盤解析および食品加工への応用
農	1994	千葉大学自然科学研究科	バラ属植物の花弁のフラボノイドによる化学分類
農	1995	東京大学農学部	牛乳アレルギー患者由来リンパ球と抗体の特性に関する研究
農	1998	千葉大学自然科学研究科生化学専攻	ラット盲腸内腸内細菌の鞭毛細胞壁アラビノキシラン分解酵素群について
農	1999	東京大学農学系研究科生化学専攻	HPLC およびキャピラリー電気泳動法を用いた糖分析法の研究

[表IV-3] (B)-(2)

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
工	1962	東京大学	繊維集合体の熱的性質
工	1974	東京工業大学	パラジウムを中心とした白金族触媒によるアニリンの水素化
工	1981	東京大学工学部	フォトレジスト回折格子による2重回折法の研究
工	1985	日本大学理工学研究科建築学専攻	高齢者居住環境評価法の開発に関する研究
工	M 1985	東京都立大学工学研究科建築学専攻	既成市街地における高齢者の地域の実態と居住類型に関する研究
工	1986	東京大学工学系研究科建築学専攻	老人のすまいに関する建築計画的な研究—住み方変化に基づく住環境の把握と対応—
工	1987	東京大学工学部	保育施設の建築計画に関する研究
工	1988	東京工業大学 理工学研究科建築学専攻	高層住宅における住環境特性と幼児の自立行動に関する研究 —幼児の生活空間計画に関する基礎的研究—
工	1988	東京工業大学	実用的可能性のある有機電解プロセスの基礎的研究
工	1988	横浜国立大学工学研究科物質工学専攻	擬一次ハロゲン架橋白金錯体の電気的光学的性質と素励起の研究
工	M 1988	東京工業大学理工学研究科物理工学専攻	色の目立ちとその照度レベルによる変化に関する研究
工	1989	東京大学工学系研究科建築学専攻	住み手による住環境計画に関する研究—建設過程における特性と問題—
工	M 1989	東京工業大学	関東大震災前の横浜市営共同住宅館に関する研究
工	M 1990	東京大学工学系研究科都市工学専攻	高齢者食事サービスを通してみた老後を支える「しくみ」と地域施設に関する研究
工	1990	横浜国立大学工学研究科物質工学専攻	非線形格子の研究—戸田格子の双対系—
工	1990	大阪大学工学研究科建築学専攻	地域需要の変化に伴う公共建築の用途変更に関する建築計画的な研究
工	1991	東京工業大学工学部	Dipole Moment Studies of Polymers and Copolymers in Relation to Their Conformational Characteristics.
工	1992	東京大学工学部	現代住宅における起居様式の変容過程に関する研究
工	1993	早稲田大学理工学研究科建設工学専攻	わが国における地盤の液状化履歴と微地形に基づく液状化危険度に関する研究
工	1994	横浜国立大学工学部物質工学専攻	含水酸化ジルコニウムを利用した合成反応
工	M 1996	横浜国立大学工学研究科都市工学専攻	都市計画マスタープランにおける都市計画と居住政策の連携に関する研究
工	1996	東京大学	コレクティブハウジング（共生型集住）に関する研究
工	1996	東京工業大学	新規縮合ピリミジン系化合物及び関連スクレオシドの合成研究
工	1997	東京工業大学工学研究科電子情報工学専攻	連想記憶モデルPATONによる脳構造を考慮した文脈依存性のモデル化
工	1997	東京大学工学系研究科建築学専攻	家相文献を中心とする江戸時代の家相説の展開の研究
工	1999	豊田工業大学工学研究科機械工学専攻	軟X線レーザーの励起過程に関する分光学的研究
工	2000	東京工業大学理工学研究科物理工学専攻	離散密度分布に基づく医療データの解析に関する研究
工	2001	埼玉大学理工学研究科生化学専攻	広帯域分光フィルタの開発とその計測及び分光画像解析への応用

2. 外国人留学生について

本学の家政学部で学んだ外国人留学生は、大韓民国、中華民国からの来日が大部分を占めている。卒業後は殆どが母国に帰り、それぞれの国において家庭生活に入るか社会活動にも貢献してきた。この100年を期に本学で修得した家政学が両国において社会に如何に生かされてきたか、具体的な活躍ぶりを調査した。

本調査も1. に準じて取得学位、取得年、社会的活動について調査した。

先ず調査に当たり、両国の卒業生の卒業年次、氏名、住所を把握するために桜楓会会員部に依頼して名簿を入手した。調査の依頼は両国の桜楓会支部長を通して郵送で調査を依頼し、また個人的に連絡できる卒業生にも協力を得て、聞き取りも行った。大韓民国はソウル市、中華民国は台北市を拠点として地方の卒業生には郵送法などにより調査が行われた。しかし、卒業後の住所変更、結婚などで住所の不明などで連絡不十分な面もあり、十分な調査が得られたとはいえないが以下のようなことがわかった。

1) 大韓民国留学生について

旧制度の1930～1944年間に卒業した学生数は表IV-4にみられるように総数27名で各学科別にみると家政学部2類が最も多く19名であった。新制度に入り1956～1999年間は総数13名で各学科別では被服学科卒業が8名で多い。これらの卒業生の社会的活動については、特に旧制度の卒業生は卒業後、中・高の教職に就くか、教養のある家庭人として生活しており、更に第二次大戦後は、専門学校や大学の設立時に伴って、今まで中・高の教師であった人たちが教員に迎えられ、高等教育の教育者として貢献したと聞いている。その中でも正確な記録として旧40回家政2類（1942年卒）李 仁喜氏は、理学博士（1975年、淑明女子大学大学院）を取得し、同徳女子大名誉教授に。また旧42回家政2類（1944年卒）の李 琦烈氏は、理学博士（1973年、延世大学大学院）を取得、母校延世大学校家政大学学長、生活科学研究所長、延世大学名誉教授、大韓家政学会会長、韓国栄養学会会長、アジア地区家政学会会長（ARAHE）、その他食物学分野の各委員、顧問などを歴任し、韓国における食物学、家政学発展のために貢献され、高い評価を得ている。同じく旧42回家政2類（1944年卒）李 叔姿氏は、世宗大学教授、旧41回家政1類（1943年卒）許 明哉氏は、国務総理大臣夫人として政会の夫君を助けられている。新制度の卒業生は情報が少なく確実な事は不明であるが、新47回住居（1997年卒）は、専門を生かした分野、大林産業建設事業部に就職している。

[表IV-3]-(C) 薬学、歯学、その他

学位の種類	取得年	取得大学・大学院	学位論文の題目
薬	1937	東京大学	レモンチン揮発成分ペリレン構造の研究
薬	1957	京都大学	アゾ色素有機試薬の研究
薬	1977	大阪大学薬学部	イノシン型シクロヌクレオシドの合成研究
薬	1999	北里大学薬学部	サイトカイン類の構造予測・構造計算
歯	1974	日本歯科大学	酵母様細菌の口腔内分布
歯	M 1989	東京医科歯科大学歯学部	ヒト歯髓のアルカリホスファターゼの酵素化学的、免疫学的性質
家政 栄養	M 1976	ギーゼン大学農学部	Studien über den Einfluss Fett oder Kohlenhydratreicher Diät auf den Fett und Kohlenhydrat stoffwechsel von Kindern mit Diabetes Mellitus
家政	2000	武庫川女子大学	高齢者下着素材の研究
保健	M 1978	徳島大学医学部栄養学研究科	Studies on Lipid metabolism in rats fed on high fat and high carbohydrate diets with reference to the induction of fatty Liver. Part II Electron microscopic histochemistry.
保健学	1984	徳島大学医学部栄養学研究科 特殊栄養学専攻	Effects of various levels of dietary calcium utilization and fetal growth in rats
保健学	2000	北里大学医療衛生学部	覚せい剤の生体内分布とその胎盤通過性に関する研究
経	1961	法政大学社会科学研究所 経済学専攻	アメリカ社会福祉発達史
経	1995	東京大学経済学研究科	明治前期における経済と福祉—農村と都市の観点から—
農業 経済	M 1995	東京農業大学農学研究科 農業経済学専攻	家計における食材選択と利用に関する情報の計量的分析 —米と野菜の調理を例示として—
教育	1980	東京大学教育学研究科	達成動機づけに関する一考察—達成動機づけにおける手段的活動について
教	MD 1999	日本女子大学人間社会 研究科教育専攻	幼児理解促進のための教師教育に関する研究
文	1976	東京都立大学人文科学 研究科心理学専攻	Internal-External locus of control の行動分析
文	1993	日本女子大学文学研究科 教育学専攻	女子消息型往来に関する研究 ～江戸時代における女子用往来研究の一環として～

日本女子大学家政学部100年研究会

江 澤 郁 子 (研究代表者・名誉教授・戸板女子短期大学学長)

一番ヶ瀬 康子 (名誉教授)

館 岡 孝 (名誉教授)

大 野 静 枝 (名誉教授)

小 川 信 子 (名誉教授)

宮 崎 礼 子 (名誉教授)

沖 田 富美子 (住居学科教授)

佐々井 啓 (被服学科教授)

真 橋 美智子 (教育学科教授)

赤 塚 朋 子 (宇都宮大学助教授)

塚 原 典 子 (新潟医療福祉大学助教授)

日本女子大学家政学部100年の歩み

日本女子大学家政学部100年研究会 編

2006(平成18)年5月20日 初版第2刷発行

発行者 日本女子大学家政学部100年研究会

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷・製本 有限会社 三秀美術印刷